

# 行政視察報告

岡山県真庭市 令和6年10月24日(木)

総務文教委員会

# 視察日時・視察先

■日 時：令和6年10月24日(木) 13:30～15:15

■視察先：真庭市役所(岡山県真庭市)



## 参加者

職 名	氏 名
総務文教委員会 委員長	芦谷 英夫
総務文教委員会 副委員長	沖田 真治
総務文教委員会 委員	村武 まゆみ
総務文教委員会 委員	岡本 正友
総務文教委員会 委員	永見 利久
総務文教委員会 委員	西田 清久

# ①真庭市の概要

平成17年3月31日、9町村が合併し、「真庭市」が誕生

■面積：828km<sup>2</sup>(東京都23区の1.3倍)

■人口：40,963人(令和6年9月1日現在 住民基本台帳)

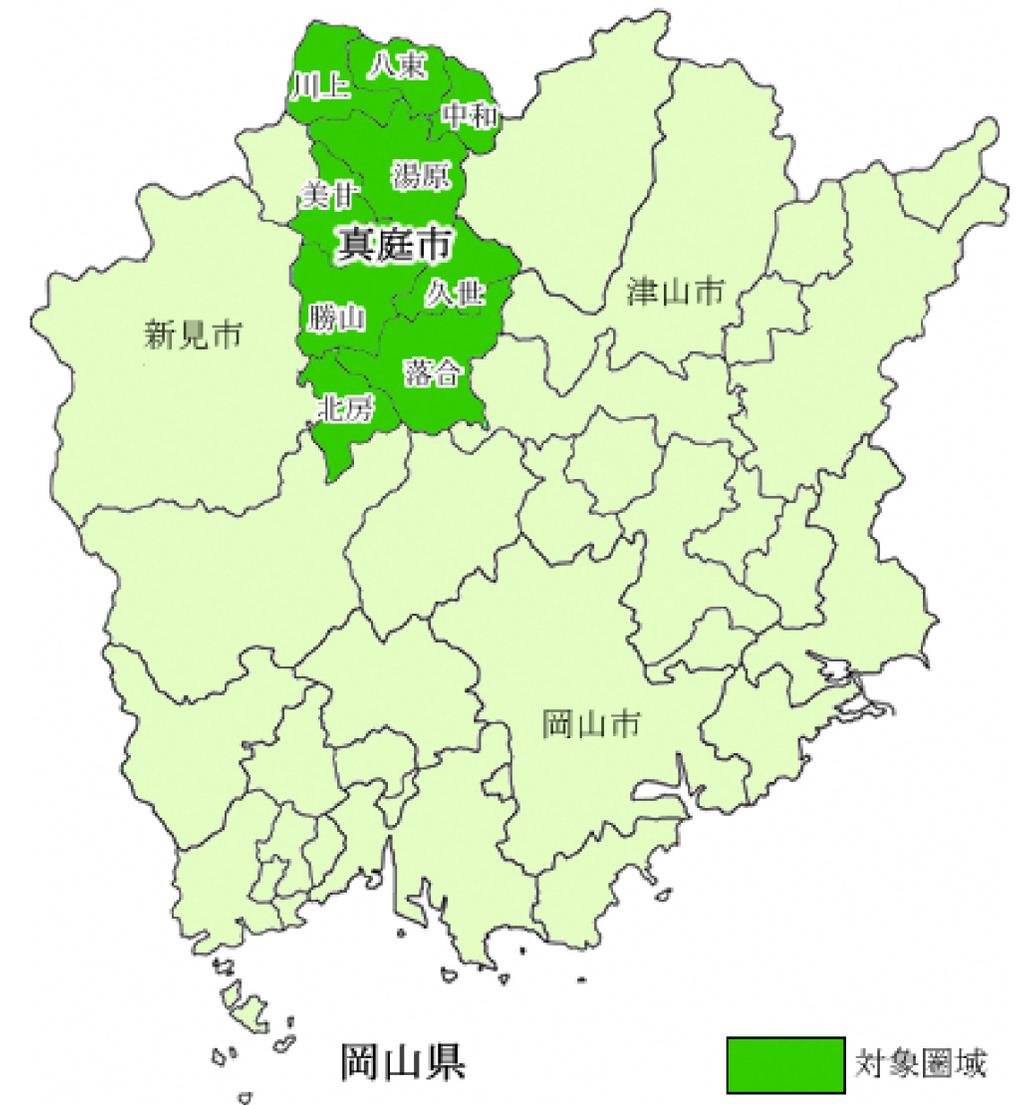
■土地利用：山林79.0% 田畑8.4% 宅地3.5%

■令和6年度予算：総額549億円

一般会計 346億円 特別会計 125億円

企業会計 78億円

自主財源 約28%



## ②視察目的と選定理由

### 【視察目的】

- ・ 取組課題のテーマ「地域交通について～移動の自由をどうつくるか～」の参考にするため

### 【選定理由】

- ・ AIによる配車システムを活用し、最適な乗合交通を官民連携で目指す新たな地域交通の仕組みであること
- ・ 「チョイソコ」を導入している自治体の中で、市域と人口が当市と同等の規模であったこと

# ③事業概要と行政の役割

～オンデマンド乗り合い送迎「チョイソコまにわ」について～

## 【事業概要】

- ・ Maasを活用した利便性の高い予約システムと効率的な運行
- ・ ドアtoドアに限りなく近い413か所の停留所
- ・ エリアスポンサー制度の導入による運行経費の捻出

## 【真庭市の役割】

- ・ 運営主体である岡山ダイハツ販売へ、収入ー支出のマイナス部分への財政支援
- ・ 岡山ダイハツ販売は運行主体であるタクシー3事業者へ運行業務を委託



# ④「チョイソコまにわ」導入の経緯

～市コミュニティバスの限界 ニーズの変化について～

- 市の中心部から外れたコミュニティバス枝線の利用が少ないことが大きな課題だった。
- コロナ禍を機に、コミュニティバス利用者数の減少と運行委託費の増加が進んだ。
- 枝線に暮らす住民の、市街地への移動の潜在的な需要があると見込んでいた。
- 「チョイソコ」の予約を受けるコールセンターの仕組みが優れており、導入により行政負担が減らせると見込んだ。



市コミュニティバス「まにわくん」

# ⑤「チョイソコまにわ」の利用状況

～住民ニーズを捉えた地域交通～

【令和5年10月の運行開始から令和6年3月までの6か月の実績】

- ・ 会員登録者数 879人
- ・ 利用者数 延べ2,509人（実人数177人）
- ・ 乗合率（平均乗車人数） 約1.2人

【利用者の概要】

- ・ 女性の利用が60～70%、65歳以上の利用が約80%
- ・ 予約方法は電話予約が圧倒的に多く、ネット予約はわずか
- ・ 転換前のコミュニティバスと比べ、延べ利用者は約1.7倍、実利用者は4倍以上となった。



# ⑥「チョイソコまにわ」の事業予算と効果

～住民ニーズを捉えた地域交通～

## 【予算】

- 令和5年度実績（6か月間）13,697千円  
※転換前のコミュニティバスと比べ約360万円の増額
- 令和6年度予算 23,189千円  
※10月時点で不足気味な状況

## 【効果】

- 市民の活動量が増加したと実感している。
- 放課後児童クラブや教育センターへの移動など、新たな利用者が増えた。



# ⑦「チョイソコまにわ」の課題と今後の展開

～行政サービスとは？～

## 【課題】

- ・ 1人利用が多く、乗合率が低い（運行コストの増加）
- ・ 利用が多く電話が繋がらない、予約が取れない
- ・ 運行が過密になり、運転手の休憩時間が取れない
- ・ 「チョイソコ」空白地区をカバーすることができない現状

## 【今後の展開】

- ・ 新たなデマンドの仕組みづくり（現在も事業者と協議中）

## ⑧委員会の考察

～移動の自由をどうつくるか？～

- AIの活用により利便性の向上と行政負担の軽減について参考になった。
- 導入の際、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用している点も参考になった。
- 本市の複数ある地域交通形態の利用頻度が減ってきている事業の統廃合を図り、より良い乗合デマンドの制度を検討する必要があるのではないか。
- 全国的に導入されつつあるライドシェア等について、他の自治体の事例等を参考に研究することも必要であると認識した。
- 民間企業が開発した優れたシステムを導入しなくても、浜田市独自の市民ニーズを捉えた先進的な地域交通の形を見つけられることが理想である。

以上